



## 子どもワークショップでの意見・提言

- 買い物する所を増やしてほしい(大きい本屋など)。
- 歩いていけるような所にお店がほしい。
- 川根茶だけでなく、他にも有名なものをつくる。
- 川や森(山)がきれいな町にしたい。
- みんながあいさつをする町。秋以外でもたくさんの方が来てくれるような町にしたい。
- SLや井川線などこれからはずっと町にあってほしい。
- 他の町の人にもお茶の町の良さを伝えたい。
- カヌーを広める(良い所をアピールする)。
- つり橋を残す。
- 観光シーズンが終わった後のごみ拾い活動をする。
- お茶つみ体験などをできる場所をつくる。
- 町の自慢を増やしたい。
- 冬に観光客が減ると思うので、冬の名物とかもアピールする(温泉とか)。
- お茶つみで、つんでいる人がほとんどお年よりなので、若い人を増やしたい。
- 観光客もお茶つみできるような場をつくってほしい。
- お年寄りも安心してゆっくりできる公園が欲しい。
- 病院・ショッピングセンターなどが近くに欲しい。

### 第2章 川根本町的发展課題

## ワークショップで見

昨年度から今年度にかけて、計6回行われた住民参加の探った子どもワークショップ。この2つのワークショップを紹介します。町民の皆さんからみた「川根本町的发展課題」です。

- 町の中心に巨大なテレビをつける。
- 病院をもっと、充実させる。
- マンションなどの大きな建物を建てる。
- 町のサービスの充実。存在する意味のある施設。
- あまり必要ではない(使われていない)施設をつぶして、本当に必要な施設を建てる。
- 茶茗館を、町民にとって存在するイミがある建物にして!
- 過疎化・少子高齢化進行ストップ!医療の町を目指す。



- 携帯電話をどの場所でも使いたい。若い人が町内で働ける場所を提供してもらいたい。
- 公園や体育館を作りたい(遊ぶ場所が欲しい)。
- 歩道の整備、通学路の安全保護をしてもらいたい。
- 中川根に通ってる町バスを本川根にも通してほしい。
- 携帯電話をどの場所でも使いたい。若い人が町内で働ける場所を提供してもらいたい。
- 公園や体育館を作りたい(遊ぶ場所が欲しい)。
- 歩道の整備、通学路の安全保護をしてもらいたい。
- 中川根に通ってる町バスを本川根にも通してほしい。
- 森のことを知れる所。森林の大切さがかかる所。
- バザーを開いて、そのお金で町の施設を増やす。
- 産業だけでなく商業の活性化を。町全体「四季の里」計画。
- 若い人たちが向ける店を開く。
- マムシを葉にして売る。
- 町の観光について夏などに大ぜいいろいろな地域から人が来てくれるので夏に主にイベントを増やせばいいと思う。
- 川根本町に泊まる所があまりないから、泊まる所を作してほしい。
- 伝統的なおまつりをもっと都会の人に知ってほしい。
- 町営バスをもっと増やし、町内をたくさんいさききできるようにする。
- 川根本町の良い所を、テレビやチラシにしてアピールする。
- 大きな会社をつくり、少子高齢化を防ぐ。お茶を利用して、観光客を増やし、にぎやかな町にすればいいと思う。
- 旧本川根には、品がそろったコンビニ的な店がほとんどないから、作ってほしい。
- お店を増やし遠出をしなくていいようにする。中川根と本川根でやることをもっと共通したい。
- 福祉施設を増やしたいと思う。子育てしやすい場所、保育所などをつくる。
- 1~2年生など、4時間目などで終わる子たちのために、いろいろな遊びができる場所を作してほしい。

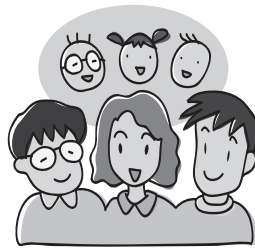


## 町民ワークショップでの意見・提言

- 介護サービスについて早朝や夜にサービスを必要としている人がいる。24時間営業は無理でも、早朝などサービス時間を増やすことができないか。
- 本川根地区に外出支援事業はなく、福祉としてのサービスができていない。
- 高齢者への節目のお誕生日に町内の宿泊施設招待券を配布すれば、地元の人たちに活用してもらおうことで、温泉や川根本町を町外にアピールできないか。
- 高齢者の余暇の活用を積極的に生かさないか。高齢者の生きがいづくりや介護予防にもなる。
- 子どもから高齢者までが集まる場所がない。旧中川根町のふるさとづくり事業を参考に、交流の場を整備する地区に補助がでないか。
- 乳幼児医療費助成について、子育てしやすい町をアピールするために所得制限を撤廃し、対象年齢も拡大できないか。
- 子育てに必要ななくなったものの引き取りやレンタルを検討。
- 若者夫婦への支援を充実させたい。人がいなければ、町はしょぼくなる。人が増えれば施策も充実する。
- 身近な小公園を設置し、河川整備に伴う水辺空間を整備する。
- 空家バンクの創設(貸しても良い、売っても良い民家の情報を)

## えてきた「町の課題」

ワークショップ。そして子どもたちの視点から町の課題を話し合われ、導き出された意見や提言などを一部ご紹介する。



- ストックして情報を提供する)。
- 荒れた山々を、どうしていくのが問題である。
- ゴミ減量・リサイクル推進...ごみ減量の意識改革が必要。
- 町の防災マニュアルがあまり住民には知られていない現状がある。
- 通信システムの整備を。同報・行政無線の統一、情報を迅速に伝達する。
- 今ある公共施設(不採算施設)の改革。
- 発電所の水利権の更新期にとられず大井川全川について研究協議し行動する。
- 家庭の水まわりから出る洗剤の毒性を調べ、町民に示す。
- カヌーやボートが流れ、釣りや川遊びをする人の集まる大井川を再生。
- 日本人のお茶の高級感の意識が低下している。
- まず地元の人が地元を知る。
- CMを見て茶畑に訪れる人が多いが生産者は困る。
- ゴミ問題など。それで生活している人は考えが違ふ。地元以外の人間を受け入れる体制づくりも必要。
- 出材コストの低減化による大井川材の市場拡大を図りたい。
- 間伐の促進、荒廃林の手入れが必要。
- 学童保育(放課後児童クラブ)の設立。
- 小学校の統廃合については、関係者の考え方を察知のうえ、関係する委員、教育行政職員は、常に学校の中の学習環境に敏感に反応してほしい。
- 「千年の学校」「生涯学習講座」で大学の講師を連れてきてもだんだん人が集まらなくなる。もっと地元の人が教えてやってもいいのでは?
- 環境をテーマとした小中学生の総合学習を推進する。
- 南アルプスの入口として世界遺産の価値をアピールする。
- 縦割行政からの脱却のため、即実行できる部隊の編成。組織の再編が必要。
- 総合計画(実施状況)の検証について夢で終わらず、定期的に検証するようなシステムを作してほしい。
- この総合計画を一般町民へ認知させることが大切(作っただけではダメ)。
- 住民の意識改革「町がなんとかしてくれ」「町がやってくれる」という意識がある。町の財政が厳しいと言いがら、サービスはしてほしいとか、商店街活性化せよと求め、それなのに街へ買物に行ってしまう。
- 空き家情報の窓口を創設・希望者へ斡旋。